



# 遣伯使見聞録



## Vamos fer uma aula (授業をしましょう)

日本にいるときから、ブラジルの子たちとどんな授業をしようかなと考えていました。ある程度の考えと準備はしてきましたが、やっぱり子どもたちを見てみないと…と思い、一回目の学校訪問で子どもたちの様子を観察しました。わかったのは、とにかく学校によって子どもたちの実態や教材教具に違いがあるということです。また、指導の仕方についても疑問になる教科がありました。例えば、IDEBを直前に控えた5年生に次のような質問と説明をしました。



25 × 4 は? 25 × 4 = 100 だね。 だったら、 25 × 28 は? と聞くと、  
 25 × 28 = ※★♪◆…? 25 × 28 = 25 × (4 × 7)  
 = 筆算や指を使って 25 × 4 = 100 使うと… = (25 × 4) × 7  
 = 700 ……簡単だね!

こう説明すると「あ〜」とうれしそうに納得する子、難しそうな顔をしてメモをする子、途中であきらめる子、何言ってんのこの日本人? みたいな子、さまざまでした。いろんな子がいますが、どうにかして「あ〜」を感じさせたいと強く思いました。そこで、子どもの実態に合わせ、3パターン考えました。

- ① 話し合いのできそうな子たちには「…予想→実験→考察…」を通した理科を!
- ② 体を動かすのが好きそうな子たちには、協力して達成感を感じる体育を!
- ③ 心を落ち着かせて、だまって集中させたい子たちには、筆と墨で書く習字を!

そう計画して、いざ授業に向かいました。→これからのブラジル通信でその様子を紹介します。

## 作品交流

パラナバイ市と豊橋市は友好提携を結んでいて、その活動の一つに作品交流があります。平成24年度から始まり、7年目になります。パラナバイの19の市立小学校と、豊橋市内の交流希望校や外国籍児童のたくさんいる学校とで作品交流をしています。一回目の学校訪問後、各学校では豊橋からの作品を掲示し、紹介してくれています。そして、パラナバイの子たちの作品も受け取りましたので、大事に持ち帰り市内の学校にお届けします。

10月22日(火)

CECILIA MEIRELES 校 ⇔ 牛川小学校



10月23日(水)

AYRTON SENNA 校 ⇔ 岩西小学校

GETULIO VARGAS 校 ⇔ 向山小学校



## 食べるために ~ナッツコラム~

ブラジル人は本当によく食べる。だから、男性も女性も体格のいい方が多いよね。ナッツもそう思っていたでしょ。学校では子どもたちに、給食に加え、クッキーやサンドイッチ、果物など4食も出るんだ。学校でも招待された家でも「もっと食べる! もっと食べる!」と勧められるけど、これがブラジルのおもてなしなんだね。ナッツもよく食べる方だけど、完全に負けてるよ。ある食通の日系ブラジル人が言っていたね「俺たちは、生きるために食べるのではなく、食べるために生きるんだ」と…。今を楽しみながら生きるブラジル人らしい発言だね!

(ナッツの腕時計より)

